江戸人、唐詩選に遊ぶ

御井図書館貴重資料企画展

読んで、書いて、観て、聴いて

和刻『唐詩選』初版本　1724刊：橘石峰画『唐詩選画本』初編　1788刊(左、部分)：小松原翠渓画『唐詩選画本』五編　1832刊(右、部分)

平成28年7月1日[金] ▶ 11月30日[水]　入場無料

久留米大学御井図書館1階展示室

[平日]7月1日~8月10日・9月21日~11月30日/8:45-21:00　8月12日~9月20日/9:00-17:00
[土日]10:00ー18:00(入場は平日・土日とも閉館時間の1時間前まで)
休館日:8月11日[木]・8月15日[月]・9月19日[月]・11月3日[木]・11月23日[水]

90th Anniversary 久留米大学
地域と未来のかけ橋へ
久留米大学は2018年に創立90周年を迎えます

久留米大学文学部は 2016 年で創立 25 周年

江戸人、『唐詩選』に遊ぶ

——平成28年度　御井図書館貴重資料企画展

白髪三千丈。愁ひに縁りて箇のごとく長し。（李白「秋浦歌」）
江碧にして鳥逾白く。山青くして花然えんと欲す。（杜甫「絶句」）
空山、人を見ず。但だ人語の響きを聞く。（王維「鹿柴」）

だれもが中学校や高校で習った中国唐代の漢詩の数々。そのほとんどは、『唐詩選』という書物を出典としています。

『唐詩選』は、中国明代に、李攀龍という大学者が編集したとされる、唐代の名詩を集めたアンソロジーですが、実は彼の名声を借りた「偽撰」だと言われています。

こうしたこともあって『唐詩選』は、中国では早くから重視されなくなりました。

その一方で、日本の私たちが現在でも（間接的にではありますが）、『唐詩選』によって唐詩を勉強しているのは、なぜでしょう。

その答えを探るには、江戸時代初期に『唐詩選』が日本にもたらされて以来、人々が本書をこよなく愛し続けた理由と、その軌跡を考えなくてはなりません。

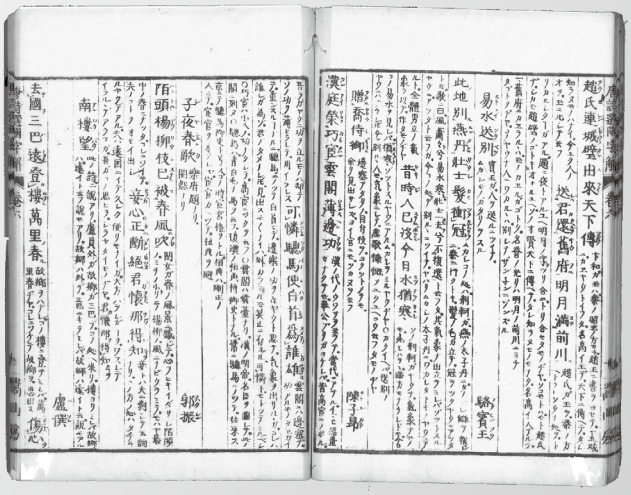
日本人でも読めるよう訓点を加えたテキストをはじめ、注釈を加えた本、口語に訳した本、また書道の手本や絵本に仕立てた本も出版し、さらにカルタにして遊んで、三味線の音にのせて唄って聴いて——。

『唐詩選』という教養を種として、花開いていたさまざまな文化を、図書館収蔵品を中心にたどることにします。

（企画：久留米大学文学部准教授　大庭卓也）

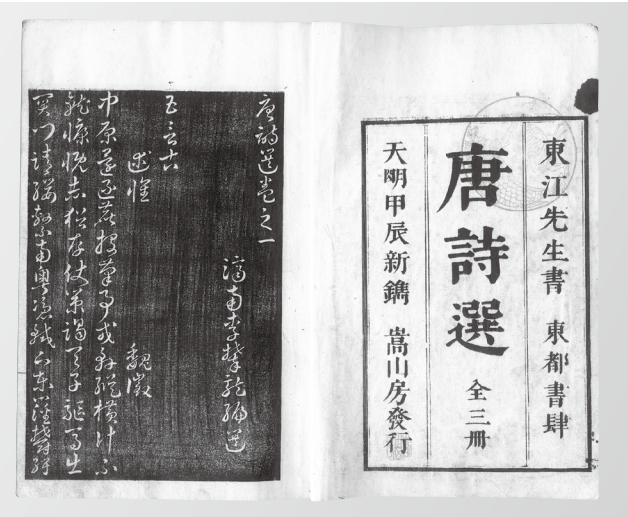
詩の意味を口語でわかりやすく解説

伝・服部南郭述、林元圭録『唐詩選国字解』
再刻本 寛政三年（1791）刊 [江戸]嵩山房小林新兵衛



江戸の能書家、楷書に、行書に、草書に写す

沢田東江書『東江先生書唐詩選』
天明四年（1784）刊 [江戸]嵩山房小林新兵衛　個人蔵



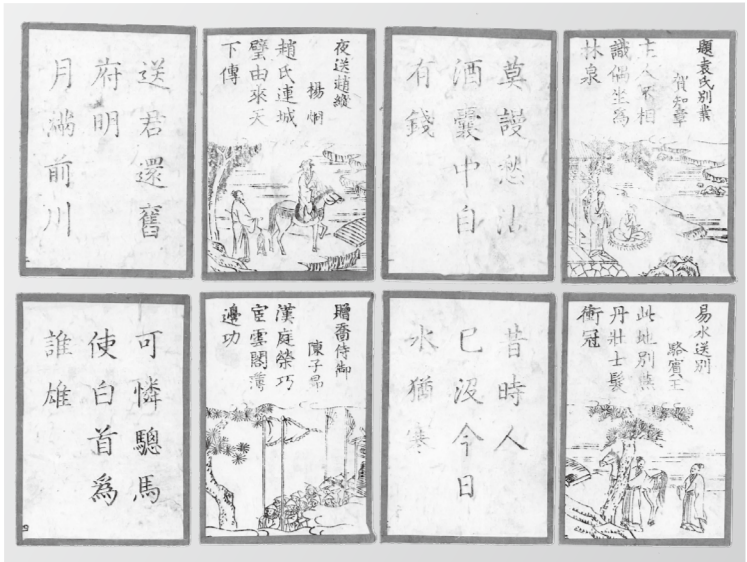
漢詩がわからなくても絵で味わい尽くす

橘石峰など画『唐詩選画本』初編－七編
天明八～天保七年（1788－1836）刊 [江戸]嵩山房小林新兵衛

読んで、書いて、観て、聴いて、教養を身につける

カルタで遊びながら詩の暗記を競いあう

『唐詩選かるた五言絶句』
江戸時代後期刊 [江戸]嵩山房小林新兵衛



その他の展示物（予定）

- （明）黄鳳池編『五言唐詩画譜』（和刻本、『八種画譜』のうち）江戸時代前期刊
- 服部南郭校訂『唐詩選』初版本　享保九年（1724）刊
- 劉道音注・高田識校訂『唐詩選唐音』　安永六年（1777）刊
- 大田南畝著・朱楽菅江註『通詩選笑知』　天明三年（1783）刊
- 大田南畝著・紀定丸校訂『通詩選』　天明四年（1784）刊
- 弄月舎有人編『藤詩選和解都々一』　明治初年頃刊
- 大館利一訓解『画入訳解唐詩選』　明治十四年（1881）刊　ほか

久留米大学御井図書館

福岡県久留米市御井町1635　Tel:0942-44-4015　Email：mii-lib@kurume-u.ac.jp　ホームページ：http://www.mii.kurume-u.ac.jp/miilib

旭町の医学図書館ではありませんのでご注意ください／御井図書館は登録制です。初めてお越しの方は、入口ゲートそばのインターホンにてカウンターにお知らせください／駐車場の関係から公共の交通機関でお越しください